

# シグマ研究委員会 核データ専門部会全体会合議事録

日 時 1983年12月2日(金) 13:30 - 17:30  
場 所 原研本部第3会議室  
出 席 者 五十嵐, 浅見, 菊池(原研), 神田, 大沢(九大), 幡磨(東工大), 飯島,  
村田(NAIG), 松延, 浅野(住原工), 青木(富士電機), 瑞慶覧(日立),  
佐々木(MAPI), 八谷(三井造船), 宝珠山(FBEC)

## 配布資料

- 1) 核データ専門部会グループリーダー会合(1983年度第1回)議事録
- 2) シグマ委員会 JENDL-3 検討小委員会(拡大)会合議事録
- 3) 「JENDL-3 計画」に関する答申
- 4) JENDL-3 収納核データ評価分担案

## 議 事

1. 会合趣旨説明
  - 核データセンター側より, 今回の会合の趣旨として, 「JENDL-3 作成についてコンセンサスを得るため, 評価担当者全員の会合を開く」との説明があった。
  - しかし旅費の関係で東海からは代表のみ出席となった。
2. 専門部会の活動報告
  - a) FP核データW.G.
    - スムーズパートのパラメータは12月中に全て決定する。
    - 共鳴パラメータの一部は遅れている。
  - b) 核融合炉核データW.G.
    - FNSの解析のためLiとOの評価を終了。
  - c) ガンマ線生成核データW.G.
    - 8核種の評価をほぼ終了。
    - 12月中にメモの原稿が揃う予定。

d) ファイル作成 W.G.

評価値プロットを終了し, JAERI-M report として刊行予定。

評価値と実験値のプロット進行中→ルーズリーフ形式で発刊予定。

File 1 のコメント部完成。

JENDL-3 用の分担者決定。

e) 核データ評価 W.G.

1) 実験法評価 S.W.G.

測定法の調査をし解説メモを作成する。

重核の同時評価への協力。

2) 軽中重核 S.W.G.

FNS 解析用の Fe, Cr, Ni の再評価。

3) 重金属 S.W.G.

Ta, W の評価。

4) 重核 S.W.G.

同時評価法の勉強。

Coupled Channel Optical Model の勉強。

実験値の共分散を推定し同時評価を開始。

5) ガス生成 S.W.G.

GNASH と THRESH で計算を行う。

評価の方針を確立したい。

3. JENDL-3 計画

- 資料 2-4 により JENDL-3 計画の説明があった。
- JENDL-3 は 82 年度から ¥ 11,000,000 の予算がついた。
- 当初 3 年の予定が 5 年となり 1986 年度完成予定, このタイムリミットはもう遅らせられない。
- JEF-1 はすでに完成しベンチマークテストに入っている。
- JEF-2 は 3 年計画でスタートしようとしている。

4. 自由討論

a) JEF と JENDL-3

- JEF-2 が JENDL-3 より先になる可能性もある。
- JEF は共同でやるのでかなりの成果が予想される。
- JEF との合理的な give and take を考えるべき。

- JEFの非公開性との調整が重要である。
  - b) JENDL-3 の評価体制
    - 期限が決められているなら、その時点であるものを JENDL-3 と考えるしかない。質で妥協する。
    - 委託とシグマ委員会の二本立で行う。
    - 必要なマンパワーは36名・年と推定されるが、高令化による減員を考えると、かなり困難であろう。
    - JENDL-2 が現存し Starting point になれる。
    - 大学では評価を学生のテーマとするのは困難である。
    - ファイル化は核データセンターの仕事と考えるべきである。
    - 評価の有効なやり方の開発が必要である。
    - PR を大量にやり周辺のサポートを得るべきである。
  - c) JENDL-2 の status review の必要性
    - まず評価値と実験値のプロットを核データセンターで行う。
    - それを全体で検討し、再評価不必要な量を決定する。
    - 積分テストの結果も含める。
    - プロットは外注では仲々難かしく、評価者の判断が必要となるが、第1次作業は外注で行える。
    - 全体でプロットを見ても効率が悪くWGで見るのが良い。
    - 全体で判断する事でコンセンサスが生まれる。
  - d) 核種の担当
    - 興味を無視した押しつけ(例えば  $\gamma$ -production data) は、委員会の性質上無理である。
    - 委託との status を評価者に知らせる必要あり。
    - 責任を持つ意味で担当を決めるのは必要で、すでに大部分は決まっている。
  - e) Advisory Committee
    - これ以上の頭機関は不用、W.G.リーダー会合で十分。
    - file 化におけるトラブル処理に対しては、ファイル化W.G.の担当者が対処すれば良い。
5. 今後の方針
- a) Status review の実行
    - 核データセンターが外注計算等により比較プロット図を作成し全員に配布す

る。

- 各W.G.で評価者およびファイル化W.G.の担当者を加えて検討する。
- その上で全体会合を開き最終的なスクリーニングを行う。

b) 評価者間の情報交換

- 各評価者に委託の現状を知らせる。
- グループリーダー会合を定期的を開く。
- Advisoy Committee は現在は不明。